

## II 研究主題について

### I 大会研究主題

# 「つなぐ・つながる造形教育」 ～ 色・形に思いをのせて ～

## 2 主題設定の理由

### (1) 今日の課題から

ここ数年、私たちはこれまで実際には経験してこなかったような大きな出来事に直面してきている。熊本地震、大雨による災害、新型コロナウイルス感染拡大は、その顕著な例である。

特に新型コロナウイルスに関しては、人と人が互いに接する場所や時間が大幅に制限された。いわゆる三密を避けたり、リモートで会議等を行ったりするなど物理的・身体的距離を確保せざるを得ない状況の中で、いかにして人と人がいわば心理的距離を近づけ、互いの「つながり」を確保していくのか、その在り方を改めて考えさせられている。

一方で、夏には一年延期された東京オリンピック・パラリンピックが開催され、アスリートが躍動する姿が多くの人々の感動を呼んだ。様々な国の、様々な競技に携わる人々が、そして様々な障がいを持つ人々が一堂に会した今夏のイベントを象徴する言葉の一つに「多様性」がある。一人一人が置かれている状況に思いをさせ、それを理解し、共感し合うことの大切さを再認識する機会となった大会でもあった。

本研究大会に掲げた主題「つなぐ・つながる造形教育」は、まさにこうした社会的状況に密接に関連している。

子供たちは図画工作や美術の時間に身の回りにあるものの色や形のよさや美しさを感じ取りながら自らの表現及び鑑賞活動に取り組んでいく。一人一人が独自の感性を働かせながら活動する過程では、決して画一的ではない様々な表現が生まれる。そうした学びを進めていく中で他者への共感や多様性への理解が深まっていく。そして、自らの表現や鑑賞に関する資質・能力を高めていくことにつながるとともに、美的表現や感受を媒体として他者とつながることもできる。

こうした営みは、学習指導要領における図画工作科の目標(3)「つくりだす喜びを味わうとともに、感性を育み、楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養い、豊かな情操を培う」及び美術科の目標(3)「美術の創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を育み、感性を豊かにし、心豊かな生活を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う」に共通している「感性」、「豊かな情操」を育むことも相互に関連するものである。

研究主題「つなぐ・つながる造形教育」は、図画工作・美術教育の本質的な部分に関わるものであり、自他の豊かな関係の構築や多様性への更なる理解が求められるこれからの社会を生き抜いていく子供たちにとって欠かすことができない教育の方向性を示すものでもあり、以上の理由から、本研究主題を設定した。

### (2) これまでの研究から

県では「つなぐ・つながる造形教育」を主題にし、これまで継続して研究を進め、「つなぐ」「つながる」の定義をつぎのように示してきた。

- 「つなぐ」とは、教師が子どもと対象を結び付けて造形活動を設定すること
- 「つながる」とは、その中で子どもが主体的に他者や他のものとのつながり、造形力を高め豊かな心を培っていくこと

つなぐ・つながる造形教育を通して美術作品をはじめ教師と生徒、友だち同士、地域社会等との「つながり」が深まることが期待される。

本大会では、サブテーマとして「色・形に思いをのせて」を設定した。伝えたい思いや願いを色や形にする表現活動と、作品の色や形から作者の思いや願いを感じ取る鑑賞を通してつながりあえる造形教育を目指すこととした。

### 3 目指す子どもの姿

- 自分で感じたこと、表したいことを表現できる子ども
- 対話の中から発想し、表し方を工夫する子ども
- 試しながら発想し、表し方を工夫する子ども
- 作品に対する自分の見方や感じ方を深める子ども
- 創り出す喜びを味わい、生活を楽しく豊かにしようとする子ども

### 4 研究の仮説

- ①表現において「なぜこの色にしたいのか」「なぜこの形にしたいのか」を問いながら自身の伝えたい思いや願いと関連付けた制作を行うことで子どもが主体的に他者や他のものにつながる造形教育となるであろう。
- ②鑑賞において作者の作品に込められた思いを色や形から感じとるとともに作品や他者との深い対話を行うことでつながりあえる造形教育となるであろう。

### 5 研究構想図

